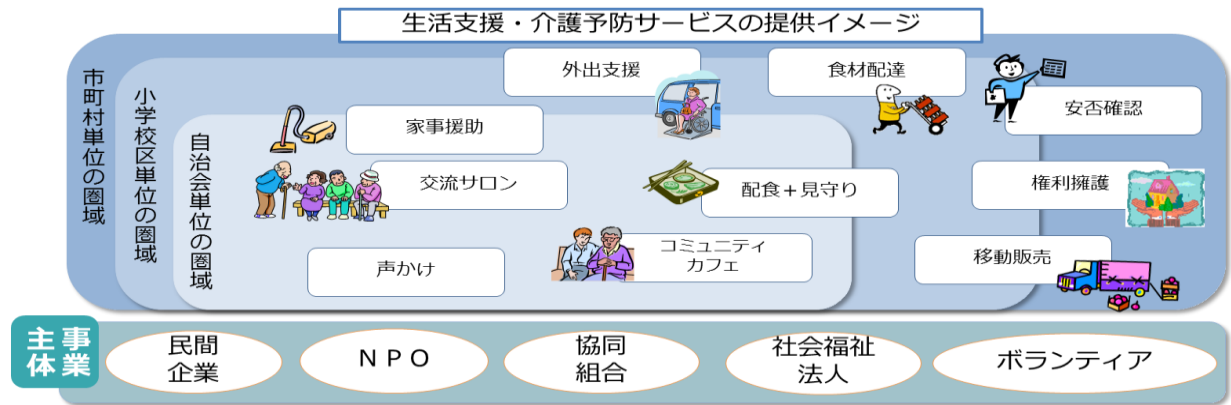


安曇野市生活支援体制整備事業の実施状況について (第1回安曇野市生活支援体制整備事業第1層協議体)

市では、第8期介護保険事業計画に基づき、地域包括ケアのより一層の推進に向けて、生活支援体制整備事業を実施しています。安曇野市介護保険等運営協議会は、この事業の市全域の課題等を検討・協議する場として、第1層協議体に位置付けられています。介護保険等運営協議会の開催に合わせて、事業計画及び事業報告を行います。

1 生活支援体制整備事業について

生活支援体制整備事業は、「生活支援コーディネーター（以下、コーディネーター）」と「協議体」の設置等を通じて、地域の支え合いによる生活支援・介護予防を広げ、地域で多様な主体によるサービス提供を推進する。



(1) 生活支援コーディネーター

地域において、生活支援等サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能（主に資源開発やネットワーク構築の機能）を果たす者。地域に出向き、地域の中でどんな活動や支え合いがあるのか、どんなことに困っているのかを把握し、サロン活動の活性化や新たな生活支援づくりを担う。

(2) 協議体

地域におけるコーディネーターと生活支援等サービスの提供主体等が参画し、定期的な情報共有及び連携強化の場。コーディネーターをバックアップするとともに、さまざまな立場の人たち（NPO法人、シルバー、地区社協、民生委員など）が一緒になって支え合いの地域づくりに向けて協議する場。

(3) 第1層、第2層の圏域の考え方

- 第1層 市全域
- 第2層 日常生活圏域（豊科地域、穂高地域、三郷地域、堀金地域、明科地域）

(4) 安曇野市におけるコーディネーター及び協議体の配置

- 第1層コーディネーターは、市職員を1名配置。(平成28年3月～)
- 第1層協議体は、安曇野市介護保険等運営協議会を充てて設置。(平成28年5月～)
- 第2層コーディネーターは、委託※により各地域に1名配置。(平成28年4月～)
- 第2層協議体は、委託※により各地域に設置。(平成28年9月～)

※(豊科地域:JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん、
穂高地域、三郷地域、堀金地域、明科地域:安曇野市社会福祉協議会)

2 令和2年度生活支援体制整備事業報告

(1) 第2層コーディネーターの取組

- 地域のサロン等へ出向くことや拠点で行う活動(地域学習会を含む)などを78回※1行うことにより、住民や関連団体へ生活支援や介護予防の必要性を伝えるとともに、それぞれの活動を支援し、助け合い・支え合い活動を広げた。
- 担い手の養成は、コロナ禍の中での工夫により、例年より参加者数が大幅に減少したものの、それぞれの拠点等で実施した事業で延べ437名※2が受講等し、その中で担い手支援につなげた。
- 各拠点で実施した「拠点介護予防教室」の参加者のOB会などを支援し、新たな住民主体の通いの場など新規立ち上げを含む相談支援を61カ所※3行った。

※1 あんしん18回、社協60回

※2 「あんしんセミナー」230名、「あんしんして暮らせる里づくり研修会」35名、「地域の世話焼きさんスキルアップ講座」28名、「地域の世話焼きさん講座」59名、「認知症サポーター養成講座」27名、「三郷地域福祉教室」58名

※3 あんしん1カ所、社協60カ所

(2) 第2層協議体の取組

- 概ね2ヶ月に1回程度開催※1をする中で、地域の課題やこれから必要な資源について、意見交換や学習を行うことで、団体間の情報共有・連携を深めた。また、支え合いの地域づくりに向けた学習、企画、事業を進めた。

※1 開催回数:豊科5回、穂高5回、三郷6回、堀金4回、明科4回

【協議体構成団体・活動内容】

	豊科地域	穂高地域	三郷地域	堀金地域	明科地域
構成団体	支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、老人クラブ、区長会、包括など11団体	支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、老人クラブ、シルバー人材センター、包括など14団体	支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、老人クラブ、公民館、包括など団体	支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、老人クラブ、シルバー人材センター、公民館、身体障害者協会、各地区社協、包括など22団体	支部社協、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、老人クラブ、シルバー人材センター、薬剤師会、包括など12団体



内容	「高齢者の移動支援」の課題に取り組む。移動支援に係るアンケートの作成、検討及び結果の検討から仕組みづくりの検討。	これまで実施してきた行政区の分析を踏まえ、支え合いの仕組みづくりを始めたという区長も参加しての意見交換等を実施。	コロナ禍でも住民がつながれる場の必要性を再認識し、市内の先進地を視察するなどして「場づくり」を検討	小地域での支え合い活動の必要性が見えてきており、先進事例を共有し。仕組みづくりに向けて学習を実施	ワークショップからあがった課題である「空き家対策」「買い物支援」「居場所づくり」などをテーマに、地域資源を生かした支援の検討
-----------	--	--	---	--	--

(3) 第1層コーディネーター・協議体の取り組み

- 市と生活支援コーディネーターとの打ち合わせ会議を月1回行い、各圏域の実施状況を確認する中で、当事業における課題の検討や進捗状況を管理した。まちづくり推進会議の提言を踏まえ、地域づくり課との連携を深めた。
- コーディネーターの具体的な活動を周知するため、広報誌「ほほえみのわ」を創刊し、各地域2回発行した。
- 生活支援サービスガイドブックの情報※1を更新し、区長、民生委員等関係者へ配布を行うとともに、金融機関、医療機関、公民館、温泉・入浴施設等への設置を依頼した。
- 第1層協議体を2回開催し、生活支援体制整備事業の取組状況の報告をした。
- コロナウイルスまん延に伴う緊急事態宣言解除後、各地域の協議体活動を推進するため、協議体委員向けの協議体研修会を開催した。
- 支え合いの地域づくりに向けて、地域づくり課、長寿社会課と共催した市民向けの「地域支え合い推進フォーラム」をオンラインで開催した。

※1 掲載件数：豊科地域 165 件、穂高地域 96 件、三郷地域 84 件、堀金地域 68 件、明科地域 87 件

【協議体研修会・地域支え合い推進フォーラムの内容】

	協議体研修会	地域支え合い推進フォーラム
日時・場所	令和2年6月25日～7月8日・各地域	令和3年3月3日～9日・オンライン開催
テーマ	事業説明・助け合い体験ゲーム（グループワーク）	世代をつなぐ地域づくりを考える -3つのSで乗り越えよう！新型コロナウイルス対策-
参加者	100名	視聴回数 325回
講師	介護保険課職員	東京都健康長寿医療センター研究所 藤原 佳典 研究部長
内容	<p>新型コロナウイルスまん延に伴う緊急事態宣言後に協議体の活動を再開するにあたり、活動を円滑に進めるため、それぞれの地域で開催した</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<p>高齢者の皆様が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、コロナ禍においても、地域の中で支え合いによる生活支援・介護予防を広げるため、多様な主体によるサービスの提供方法を探った。</p> <p style="text-align: center;">【別添チラシ参照】</p>

3 令和3年度生活支援体制整備事業活動計画

(1) 目標

- 第8期介護保険事業計画に基づき、地域の中で支え合いや助け合いによる生活支援や介護予防の取り組みをさらに充実させるため、地域福祉担当部門やまちづくり部門との連携を深め、地域ニーズの把握をし、既存資源とのマッチングを進る。
- 関連団体との情報共有・連携強化の場となる協議体活動は、区をはじめ、多様な団体とのつながりを深め、地域の中での取り組みを着実に進める。

(2) 主な取組

- 行政区などでの懇談、学習を行うことにより、地域での支え合いや助け合いの意識を広める。
- 地域で生活支援や介護予防をしている実践者（運営者）や新たに活動を希望する者の相談・支援に応じ、地域の支え合い体制づくりを進める。
- 高齢者のみならず、地域のあらゆる世代とのつながり・協働により、地域の多様な主体による支え合い体制づくりを支援する。関連する事業として、地域見守り活動の周知などを行う。
- 生活支援コーディネーターの認知度を高めるために、地域ごとに年2回広報誌を作成する。
- 支え合いの地域づくりに向けた関連する事業は、庁内連携により、取組を進める。
- 地域ごとの協議体活動を進めつつ、さらなる活動の推進に向けて第1層・第2層協議体の「全体研修会」を開催する。
- 市民への支え合いや助け合いの意識を深めることで、新たな生活支援等の担い手の掘り起こしのために、市内の実践者を交えた「地域支え合い推進フォーラム」を開催する。

オンライン

安曇野市 地域支え合い推進フォーラム

～コロナ禍における地域づくり-新たな支え合いを考える～

参加無料
申込不要

今年度のフォーラムは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインで開催をします！

配信期間

令和3年3月3日(水) 10:00

～3月9日(火) 17:00まで

※期間中はいつでも視聴することができます。

視聴方法

安曇野市公式YouTubeチャンネル

URL: <https://www.youtube.com/user/AzuminoCity>

※配信期間中に「令和2年度安曇野市地域支え合い推進フォーラム」と検索ください。
※期間終了後、希望する方には当日の内容を録画したDVDを貸し出します。



プログラム

◆基調講演 「世代をつなぐ地域づくりを考える (講演時間75分) ～3つのSで乗り越えよう！新型コロナウイルス対策～」

講師 藤原 佳典 氏 東京都健康長寿医療センター研究所
社会参加と地域保健研究チーム 研究部長 (チームリーダー)



【プロフィール】

北海道大学医学部卒業、京都大学病院老年科等を経て京都大学大学院医学研究科修了(医学博士)。多世代共生の地域づくり・ソーシャルキャピタルの視点から高齢者の社会参加と介護予防・認知症予防について実践的研究を進めている。一例に、2004年より次世代支援・世代間交流を通してフレイル・認知症予防をめざすシニア読み聞かせボランティア「りぷりんと」プログラムを開発し、活動を推進(NPO法人りぷりんとネットワーク理事・NPO法人日本世代間交流協会副会長)。内閣府、厚労省の検討会委員他、多数の自治体の審議会座長を歴任。

◆活動報告 「コロナ禍における私たちの実践」(報告時間15分)

生活支援体制整備事業を委託している団体から報告をいただきます。

報告者 池田 陽子 氏 特定非営利活動法人JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん
北村 早希 氏 社会福祉法人安曇野市社会福祉協議会

生活支援体制整備事業の取組はこちら



【主催】安曇野市 【共催】 社会福祉法人 特定非営利活動法人
安曇野市社会福祉協議会、JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん
【後援】安曇野市区長会、安曇野市老人クラブ連合会、安曇野市民生児童委員協議会

お問い合わせ

☎71-2472

安曇野市保健医療部介護保険課
E-mail: ka-kaigohoken@city.azumino.nagano.jp